富山県文化振興財団
埋蔵文化財発掘調査報告第24集

北陸新幹線関係

埋蔵文化財包蔵地調査報告(4)

ＨＳ－10埋蔵文化財包蔵地
（宮沢釈迦遺跡）
ＨＳ－15埋蔵文化財包蔵地
ＨＳ－16埋蔵文化財包蔵地
（吉城寺南遺跡）
舌山遺跡

2004年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

北陸新幹線は、現在工事が進められています。

当埋蔵文化財調査事務所では、北陸新幹線建設計画に伴い、平成８年度から日本鉄道建設公団（現、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構）の委託を受け、新幹線建設予定地内の埋蔵文化財包蔵地について、その範囲等の確認調査を実施しています。今年度は、黒部市内の４ヶ所の包蔵地確認調査を実施しました。

本書は、ＨＳ－10、ＨＳ－15、ＨＳ－16、そして舌山遺跡における遺跡の範囲や時代、遺構と遺物の遺存状態を把握するために実施した包蔵地確認調査の結果をまとめたものです。この調査の成果が今後の発掘調査と研究の一助になれば幸いです。

最後に、今回の調査にあたり格別のご協力とご配慮をいただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

平成16年３月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
所　長　桃野　真晃

例　言

1　本書は平成15年度に黒部市宮沢、宮野、吉城寺、若栗地内の北陸新幹線建設予定地内で実施した埋蔵文化財包蔵地の確認調査報告書である。

2　調査は富山県教育委員会の決定に基づき、財団法人富山県文化振興財団が独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（鉄道・運輸機構）からの委託を受けて実施した。

3　調査は財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が実施した。調査員は次の通りである。
　調査第二課課長　宮田進一、同主任　菅田　薫、同文化財保護主事　武田健次郎・床平慎介

4　本書の編集・執筆は菅田が担当し、武田・床平の協力を仰いだ。

5　遺物写真の撮影は、調査第一課課長　狩野　睦が行った。

6　出土遺物及び記録資料は、埋蔵文化財調査事務所が一括して保管している。

目　次

序
例言
目次
Ⅰ　位置と環境 …… 1
Ⅱ　調査の経緯 …… 1
Ⅲ　調査の結果 …… 4
　1　ＨＳ－10　埋蔵文化財包蔵地（宮沢釈迦遺跡） …… 4
　2　ＨＳ－15　埋蔵文化財包蔵地 …… 6
　3　ＨＳ－16　埋蔵文化財包蔵地（吉城寺南遺跡） …… 7
　4　舌山遺跡 …… 10
Ⅳ　小括 …… 10
引用・参考文献 …… 11
写真図版
報告書抄録

図・表・写真図版目次

第１図　調査対象地と周辺の遺跡 …… 2
第２図　ＨＳ－10トレンチ位置図 …… 5
第３図　ＨＳ－15トレンチ位置図 …… 6
第４図　ＨＳ－15・16トレンチ位置図 …… 8
第５図　舌山遺跡トレンチ位置図 …… 9

第１表　調査結果一覧 …… 1
第２表　周辺の遺跡一覧 …… 3
第３表　ＨＳ－10トレンチ一覧 …… 4
第４表　ＨＳ－15トレンチ一覧 …… 6
第５表　ＨＳ－16トレンチ一覧 …… 7
第６表　舌山遺跡トレンチ一覧 …… 10
第７表　平成15年度包蔵地確認調査一覧 …… 11

図版１　ＨＳ－10・ＨＳ－15・ＨＳ－16・舌山遺跡　航空写真
図版２　ＨＳ－10
図版３　ＨＳ－10出土遺物・ＨＳ－15・ＨＳ－16
図版４　ＨＳ－16・舌山遺跡

Ⅰ　位置と環境

北アルプスに源を発し、急峻な黒部峡谷を流れでた黒部川は、標高150m付近の宇奈月町愛本を扇頂部に、標高０ｍの海岸線まで同心円状に等高線が並び、典型的な扇状地を作り出している。黒部川のほか小川、船川、入川などが複雑に流れ現在の複合扇状地となり、古くは「四十八ヶ瀬」と呼ばれていた。黒部川の左右には旧扇状地と呼ばれる段丘が発達し、この段丘上や、高位段丘になる丘陵上に多くの遺跡が立地している。縄文時代の遺跡には、右岸には不動堂遺跡・柳田遺跡・愛本新遺跡などがあり、左岸には浦山寺蔵遺跡・前沢遺跡などがある。このように、黒部川扇状地には多くの縄文時代の遺跡が立地するにもかかわらず、弥生・古墳時代の遺跡は少ない。北陸自動車道関連の調査で朝日町の馬場山Ｄ・Ｅ・Ｆ遺跡と道下遺跡で古墳時代の土器が、馬場山Ｆ遺跡で弥生時代の土器が出土しているにすぎない。古代になると当地にも荘園が存在したようである。東大寺領丈部荘、西大寺領佐味荘、西大寺領佐味西荘などであり、入善町のじょうべのま遺跡を、東大寺領丈部荘に比定する説がある。扇状地には中世以降の遺跡が数多く立地し、特に城館・山城が扇状地と周辺の丘陵上に散在している。

本年度包蔵地確認調査を行ったのは、黒部市内に所在するＨＳ－10・15・16埋蔵文化財包蔵地と舌山遺跡の４箇所で、ＨＳ－10・15・16の各埋蔵文化財包蔵地は黒部川扇状地の西端の丘陵端部に位置し、舌山遺跡は扇状地西端の丘陵裾部に位置する。

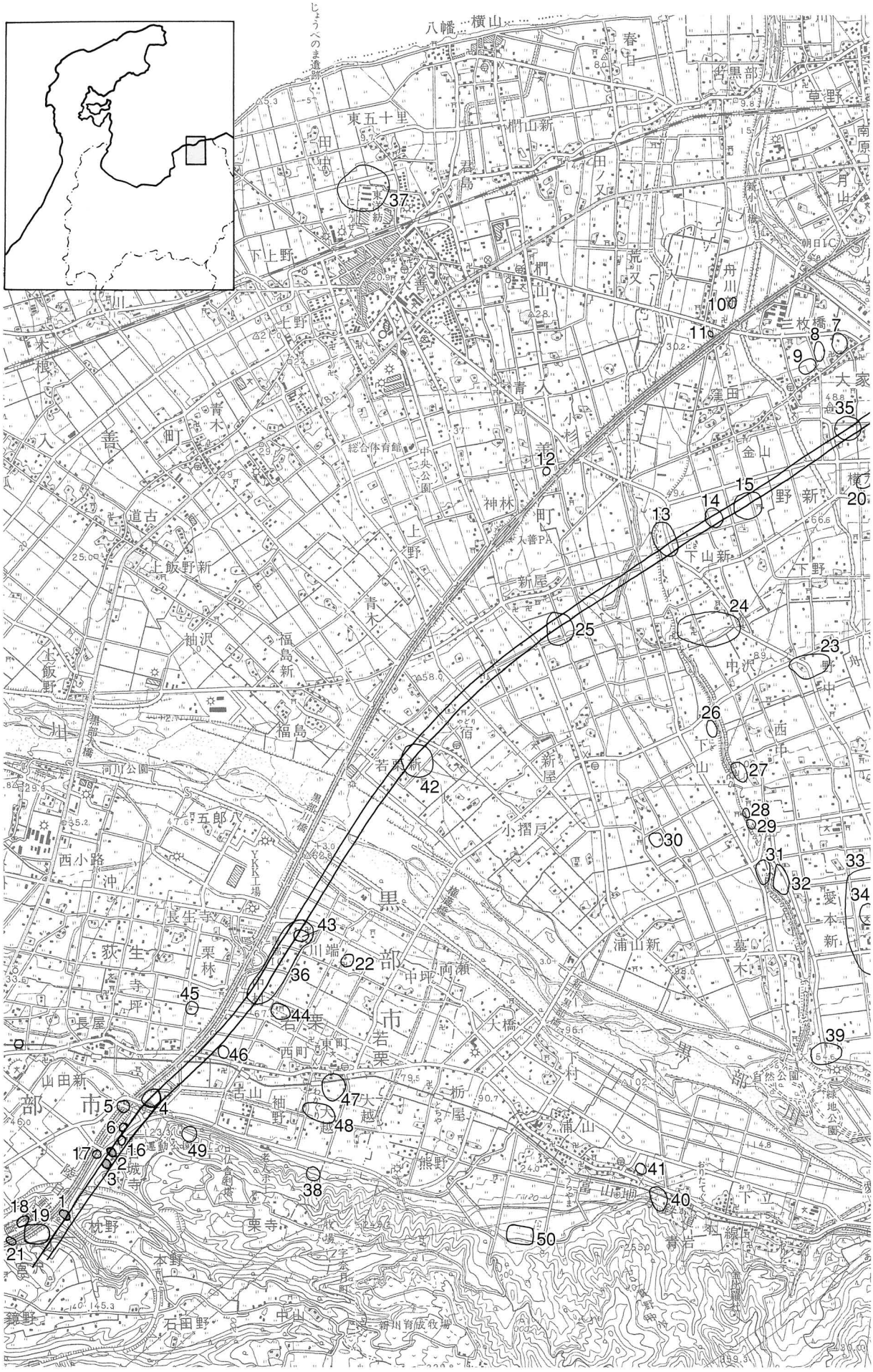
Ⅱ　調査の経緯

昭和60年、北陸新幹線ルートが発表され、日本鉄道建設公団（現、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構）の依頼をうけて、昭和60年・平成７・14年に富山県教育委員会文化課（現、文化財課）と富山県埋蔵文化財センターによって建設予定地内の分布調査が実施された。それにより周知の遺跡を含めて県東部に19箇所、県西部に11箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認された。北陸新幹線建設に先立ち用地内の埋蔵文化財包蔵地の確認調査の要望が寄せられ、日本鉄道建設公団と県文化財課の協議の結果、富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所に調査を依頼することになった。これを受けて、平成８年度には小矢部市下川原遺跡の調査を実施した。平成11年度以降は、県東部から包蔵地確認調査を順次実施しており、平成13年度、新黒部駅・富山駅間の工事認可が降りるとともに、工事着工の急がれる、新黒部駅以東の柳田遺跡などの発掘調査も実施している。

本年度確認調査を実施したＨＳ－10埋蔵文化財包蔵地は、昭和60年の分布調査で、ＨＳ－15・ＨＳ－16埋蔵文化財包蔵地は、平成14年の分布調査で新たに確認されたもので、舌山遺跡も平成14年の調査により遺跡の範囲が拡大されたものである。以下に平成15年度に実施した包蔵地確認調査の概要を記す。

遺跡名	調査期間（実働日数）	対象面積	発掘面積	遺跡の有無（時代）	遺跡推定面積
ＨＳ－１０	H15.10.20～10.23（3日）	7,200㎡	288㎡	有（縄文）	1,324㎡
ＨＳ－１５	H15.５.12～５.14（3日）	5,600㎡	498㎡	無	
ＨＳ－１６	H15.５.14～５.20（4日）	800㎡	98㎡	有（古代・中世）	1,854㎡
舌山遺跡	H15.11.12～11.14（2日）	354㎡	45.9㎡	無	

第１表　調査結果一覧



第１図　調査対象地と周辺の遺跡（1:50,000）

番号	名　称	所　在　地	県地図番号	種　別	時　代	備　考
1	HS－10	黒部市宮沢	207068			宮沢釈迦遺跡
2	HS－15	黒部市宮野				
3	HS－16	黒部市吉城寺				吉城寺南遺跡
4	舌山遺跡	黒部市若栗舌山	207027	散布地	縄文	
5	山田新遺跡	黒部市山田新	207073		縄文、中世	昭和53年発掘調査
6	HG－30	黒部市山田新	207028	散布地	不明	分布調査で土器片を確認
7	館ノ城跡	朝日町三枚橋字館	343060	城館	中世（室町）	昭和51年試掘調査
8	天戸遺跡	朝日町三枚橋	343061	散布地	中世（鎌倉・室町）	昭和51年試掘調査
9	天香寺遺跡	朝日町三枚橋	343062	社寺（寺院）	中世（室町）	昭和51年試掘調査
10	船川新遺跡	朝日町船川新	343058	散布地	不明	
11	窪田遺跡	朝日町窪田	343059	散布地	不明	
12	富士塚遺跡	入善町小杉	342003	散布地	中世（室町）	
13	下山新遺跡	朝日町下山新字馬坂	343069	集落	縄文（中・後）	昭和47・48・50・51・平成13・14年発掘調査
14	下山新東遺跡	朝日町下山新	343068	集落	縄文（前・中・後・晩）	平成14年発掘調査
15	高橋遺跡	朝日町窪田字高橋	343067	集落?	縄文（中・後）、近世	昭和52年試掘調査
16	HS－14	黒部市宮野			不明	鉄滓を採集
17	吉城寺遺跡	黒部市吉城寺	207033	散布地	中世（鎌倉・室町）	
18	新坂北遺跡	黒部市新坂	207034	散布地	縄文、古代（奈良）	
19	新坂遺跡	黒部市新坂	207035	散布地	縄文、古代（平安）	昭和53年発掘調査
20	不動堂西遺跡	朝日町横水	343093	集落	中世（鎌倉・室町）	
21	東山遺跡	黒部市宮沢字東山	207036	散布地	縄文、近世	昭和53年発掘調査
22	善念寺館跡	黒部市若栗字川端割	207023	城館	中世（鎌倉・室町）	
23	野中遺跡	入善町野中	342005	散布地	縄文	
24	中沢遺跡	入善町中沢	342004	散布地	縄文（中・後）	
25	HS－12	入善町新屋	342018	散布地	近世	平成11年試掘調査
26	下山峠遺跡	入善町下山	342007	散布地	縄文	
27	西中遺跡	入善町西中	342008	散布地	縄文	
28	下山地蔵遺跡	入善町下山字地蔵	342009	社寺（寺院）	中世（鎌倉?）	
29	下山八幡社遺跡	入善町下山字地蔵	342010	社寺（寺院）	中世（鎌倉）	
30	新屋島遺跡	入善町新屋字島	342011	散布地	縄文（後）	
31	坪野遺跡	入善町下山字坪上	342012	散布地	縄文（中・後・晩）	昭和40年町指定史跡・平成元年試掘調査
32	愛本新遺跡	宇奈月町愛本新	341001	集落	縄文（中・後・晩）	昭和45年県指定史跡・昭和45年発掘調査
33	舟見遺跡	入善町舟見	342021	散布地	中世	舟見遺跡（342014）に統合
34	舟見中学校庭遺跡	入善町舟見	342014	散布地	縄文（中）、中世（鎌倉・室町）	
35	井ノ口城跡	朝日町井ノ口	343088	城館	中世（鎌倉・室町）	平成12・14年試掘調査
36	若栗中村遺跡	黒部市若栗中村	207072	散布地	中世、近世	平成15年発掘調査
37	西蓮寺遺跡	入善町田中字竹ノ腰	342002	散布地	中世（鎌倉）	
38	竹谷遺跡	黒部市若栗字大越	207032	散布地	縄文	
39	風野遺跡	宇奈月町愛本新字風野	341002	散布地	縄文（後・晩）	
40	下立遺跡	宇奈月町下立字沖	341009	散布地	縄文（中・後）	
41	黒部中学校校庭遺跡	宇奈月町浦山	341008	散布地	縄文	
42	HS－11	入善町小摺戸	342019	散布地	中世（鎌倉・室町）	平成11年試掘調査
43	長安寺館跡	黒部市若栗字川端	207022	城館	中世（鎌倉・室町）	平成13年発掘調査
44	若栗城跡	黒部市若栗中村	207024	城館	中世（室町）	昭和30年黒部市指定史跡・昭和49年発掘調査
45	HG－33	黒部市栗林	207025	散布地・城館	中世（鎌倉・室町）	
46	HG－32	黒部市舌山	207026	散布地	不明	
47	若栗遺跡	黒部市若栗西町・東町	207030	散布地	縄文、中世（鎌倉・室町）	
48	袖野遺跡	黒部市若栗袖野	207031	散布地	縄文	
49	宮野遺跡	黒部市宮野	207029	散布地	縄文	
50	浦山寺蔵遺跡	宇奈月町浦山字山越	341007	集落	縄文（中・後・晩）	昭和51年発掘調査

第２表　周辺の遺跡一覧

Ⅲ　調査の結果

1．HS－10埋蔵文化財包蔵地（宮沢釈迦遺跡）

調査対象地

ＨＳ－10埋蔵文化財包蔵地は、昭和60年、県教育委員会と富山県埋蔵文化財センターが実施した分布調査によって新たに発見された遺跡である。黒部川扇状地西端の段丘上、大谷川と県道本野・三日市線に挟まれた舌状に張り出す台地の先端に立地する。現況は、東側にスーパー農道がはしり、北西側の台地先端部は北陸自動車道により画された水田で、標高は西側で約72m、東側で約77mを測る。調査対象地は本線部分と変電所建設予定地からなり、調査対象面積は7,200m²である。トレンチは15ヶ所設定した。

基本層序

Ⅰａ層	表土（耕作土）	灰色粘質シルト	15cm
Ⅰｂ層	基盤整備に伴う整地層	明褐色粘質シルト：混礫	０～130cm以上
Ⅱ層	包含層	灰褐色粘質シルト	０～20cm
Ⅲ層	遺構検出面（地山）	明黄褐色粘質土	

調査結果

２～４・６トレンチをのぞきすべてのトレンチで耕作土直下に地山層または、基盤整備に伴う整地層下が地山層となっている。遺物包含層とみられる灰褐色粘質シルト層は２～４・６トレンチのみに堆積が認められる。

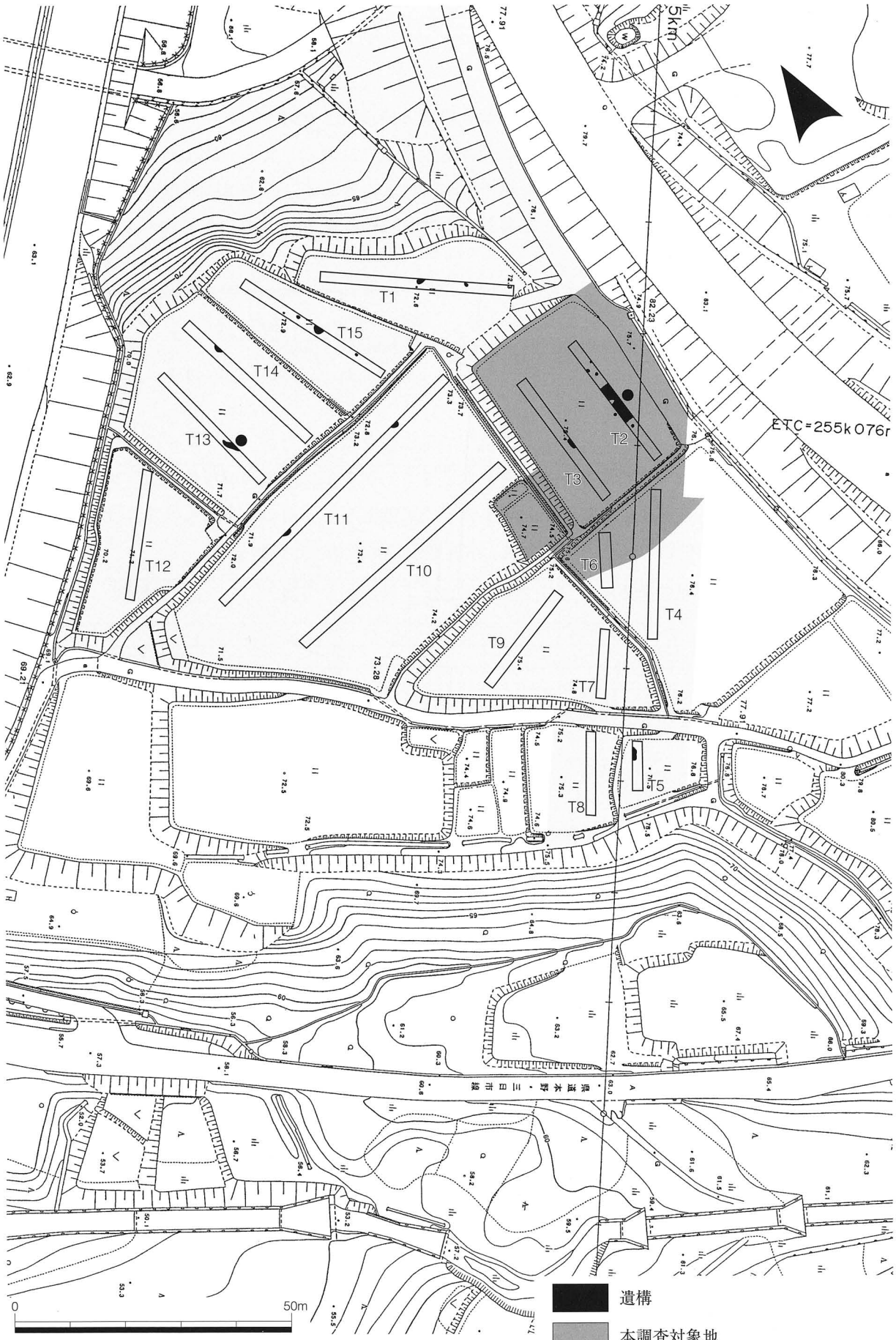
検出した遺構には倒木、穴、土器埋設穴がある。埋設土器は２トレンチで検出した。灰褐色粘質シルト層下で検出し、周囲には柱穴とみられる穴も確認した。土器は直径約25cmで土器周囲の土は固く焼け締まっている。土器のなかの土には炭が多くみられた。トレンチの精査、断面の観察から竪穴住居に伴う炉と推定できる。また、周囲の排土からは被熱した石が多数出土しており、石組炉であった可能性がある。

出土遺物は13トレンチ検出の倒木から縄文土器が１点出土している以外はすべて２トレンチ土器埋設穴周辺からの出土である。時期は縄文時代中期後葉にあてられる。

以上の調査成果から本調査対象となるのは、遺物包含層の拡がりから２～４・６トレンチを含む1,324m²となる。なお、遺跡の名称は当該地の字名から『宮沢釈迦遺跡（みやざわしゃかいせき）』とした。

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	Ⅰａ層	Ⅰｂ層	Ⅱ層	Ⅲ層	遺構
Ｔ１	34.8	0.25～0.5			－		倒木１
Ｔ２	25	0.2～0.3			縄土		土器埋設穴１・穴９
Ｔ３	25	0.25～0.35					竪穴住居？（断面で確認）
Ｔ４	28	0.25～0.5					
Ｔ５	9	0.7～1			－		倒木１
Ｔ６	11	0.5～0.8			－		
Ｔ７	12.7	0.1～0.2		－	－		
Ｔ８	14.6	0.15		－	－		
Ｔ９	21	0.2～0.85			－		
Ｔ10	48.5	0.1～0.6			－		
Ｔ11	57.5	0.1～1.6			－		倒木２
Ｔ12	25.4	0.2～1			－		
Ｔ13	26	0.2～0.35		－	縄土		倒木１
Ｔ14	30	0.2～1.5			－		穴１
Ｔ15	30	0.15～1			－		穴２・倒木１

第３表　ＨＳ－10トレンチ一覧



第２図　ＨＳ－10トレンチ位置図（1:1,000）

2．HS－15埋蔵文化財包蔵地

調査対象地

ＨＳ－15埋蔵文化財包蔵地は、平成14年県文化財課と県埋蔵文化財センターの新幹線用地内分布調査により新たに発見された。黒部川扇状地の西端の段丘上に立地し、ＨＳ－16埋蔵文化財包蔵地とはほぼ接した位置にある。標高75.5～76mを測り、現況は水田である。当地は黒部第１トンネル西側開口部にあたり、調査は本線部分に加え、工事基地を含む5,600㎡を対象とし、４ヶ所のトレンチを設定した。

基本層序

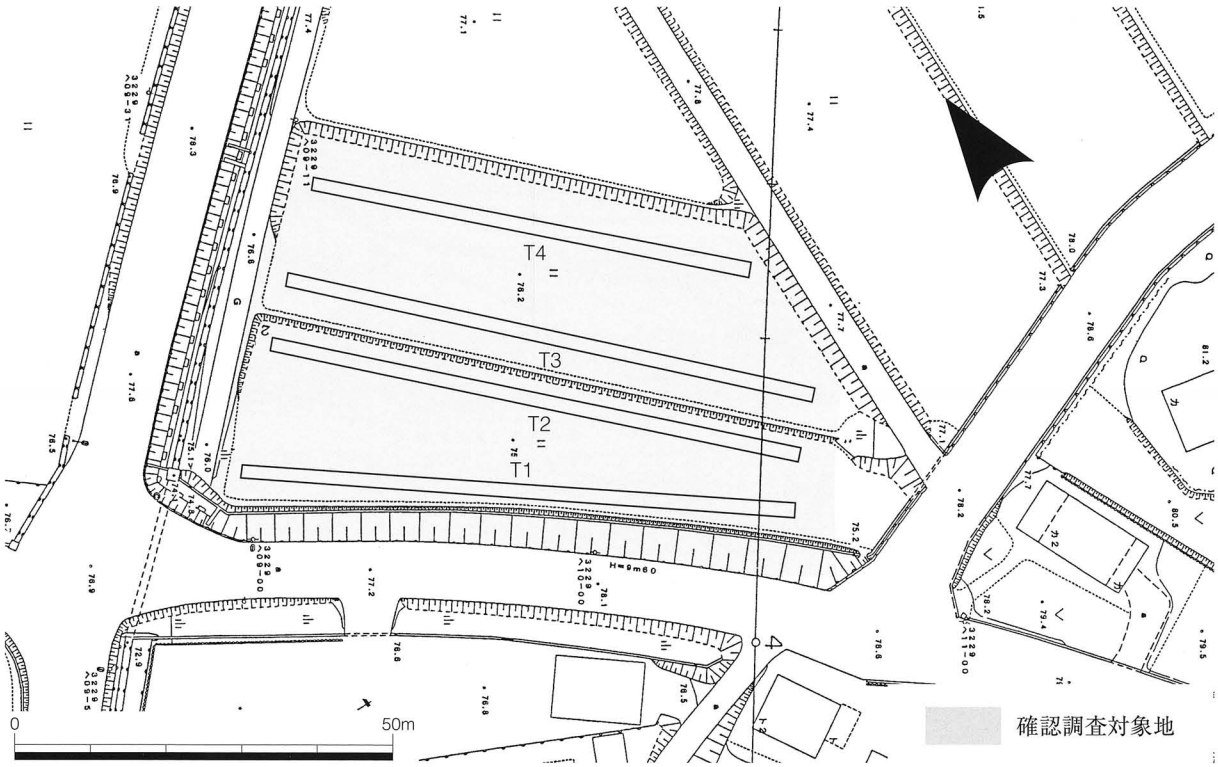
Ⅰａ層	耕作土	灰色シルト	20cm
Ⅰｂ層	整地層	にぶい黄褐色シルト・黒褐色粘質シルト・砂礫の混土	40～110cm
Ⅰｃ層	湿地？	褐灰色粘質シルト・黒褐色粘質シルトなど	０～35cm
Ⅱ層	地山	明褐色粘質シルト	

調査結果

各トレンチの両端では、耕作土を除去した直下で地山層を検出したが、トレンチの中央やや西側で流路または湿地とみられる層の堆積が認められた。３トレンチでは湿地状堆積の下層、地山直上面で現代の磁器・ガラス片が出土しており、ほ場整備直前に整地されたものと考えられる。他に遺構・遺物の検出は無く、今回の包蔵地確認調査では、本調査の必要は無いと判断した。

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	Ⅰａ層	Ⅰｂ層	Ⅰｃ層	Ⅱ層	遺構
Ｔ１	70	0.96					
Ｔ２	73.5	0.57					
Ｔ３	70	0.74					
Ｔ４	60	0.48					

第４表　ＨＳ－15トレンチ一覧



第３図　ＨＳ－15トレンチ位置図（1:1,000）

3．HS－16埋蔵文化財包蔵地（吉城寺南遺跡）

調査対象地

ＨＳ－16埋蔵文化財包蔵地も、ＨＳ－15同様に平成14年度の分布調査により確認された。ＨＳ－15埋蔵文化財包蔵地とは、道路及び宅地を挟んで南側に位置している。標高75.4～78mを測り、西南に張り出す台地の先端部にあたる。頂部から西側にかけて旧地形を残し、高低差約３ｍある緩やかな斜面をなす。南側は耕作地にするため削平されている。現況は、南側が水田、他は竹・雑木林である。調査は本線部分の800㎡を対象とし、当初２ヶ所のトレンチを設定したが、調査の進捗に伴い１ヶ所のトレンチと、１ヶ所の拡張区を追加した。

基本層序

Ⅰ層	表土	黒褐色粘質シルト	20cm
Ⅱ層	遺構埋土	暗褐色粘質シルト・黒色粘質シルト	
Ⅲ層	地山	褐色粘質シルト	

１・２トレンチ

Ⅰ層	耕作土	暗褐色粘質シルト	20cm
Ⅱ層	地山	明褐色粘質シルト	

３トレンチ

調査結果

１・２トレンチは表土層を除去すると地山または鉄滓を多量に出土する暗褐色粘質シルト層および黒色粘質シルト層の堆積となる。また、水田部分である３トレンチでも、耕作土直下で地山層が検出される。検出した遺構には土坑・穴・溝がある。溝は３トレンチの東端で検出した。検出面での幅は約１ｍあるが掘り下げを行っていないため出土遺物は無く、時期は不明である。

１トレンチで土坑・穴を検出した。土坑は炭を多量に含み、地山層との境は固く焼け締まった焼土層が認められた。炭窯とみられ、２基の存在が推定できる。このうち１基は、２トレンチ全面にわたって炭層が検出でき、２トレンチ拡張区でも同様の結果を得た。穴には煙道とみることができるものがあり、穴の内側に焼土の層がみられる。また１トレンチと３トレンチの間の崖面の断面を精査したところ、炭を多量に含む層と焼土塊が確認でき、１トレンチ西南隅から崖面にかけても炭窯が存在する可能性がある。

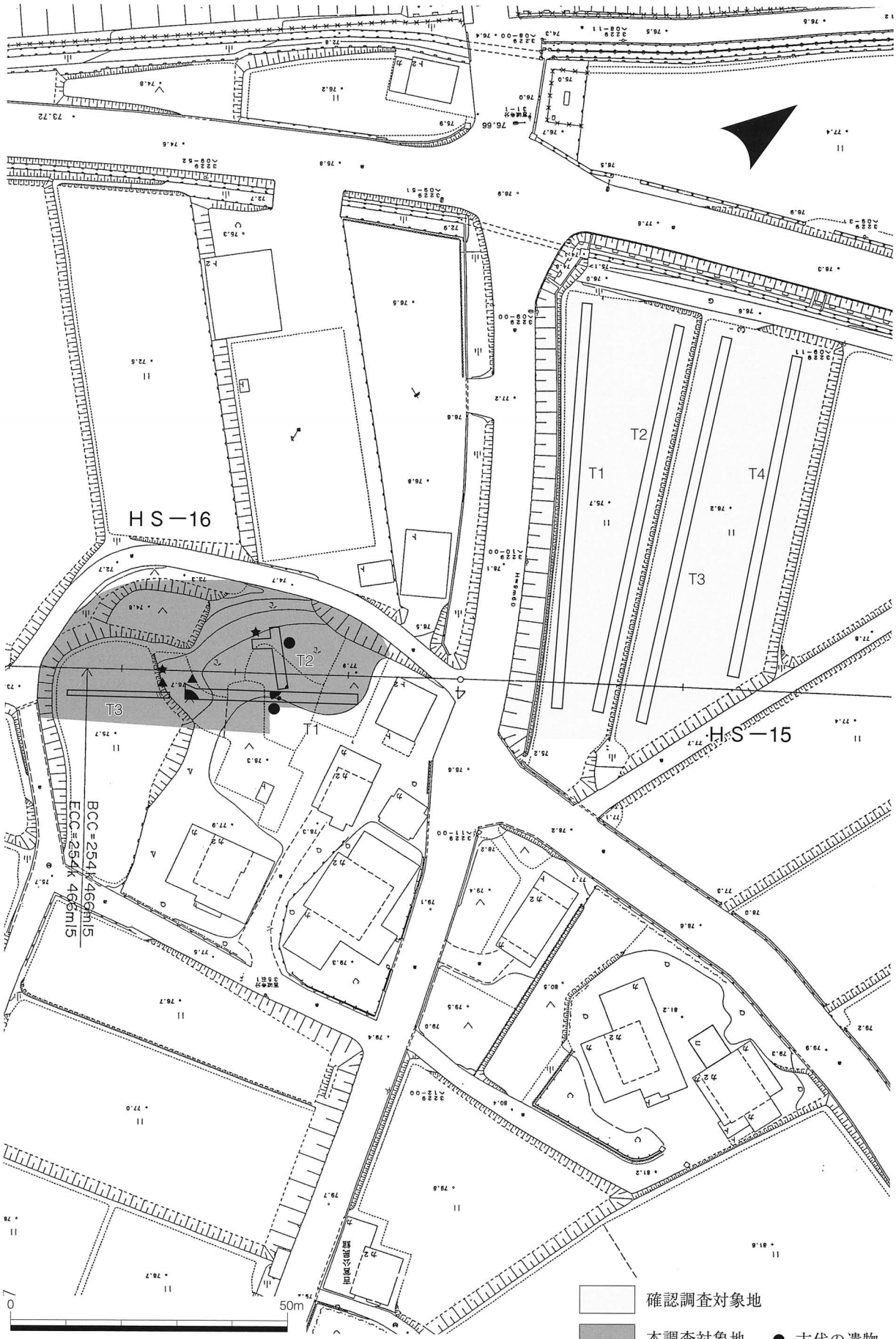
出土遺物は多量の鉄滓とともに、古代の土師器と中世の土師器が出土している。

以上の結果から、当該地は炭窯２基以上の存在が想定され、土師器の出土から古代から中世のいずれかの時期にあてられる。また、鉄滓の出土量から製鉄関連の遺構の存在も想定することができる。以上のことから本調査対象面積は隣接する工事基地部分も含めて、1,854㎡とした。

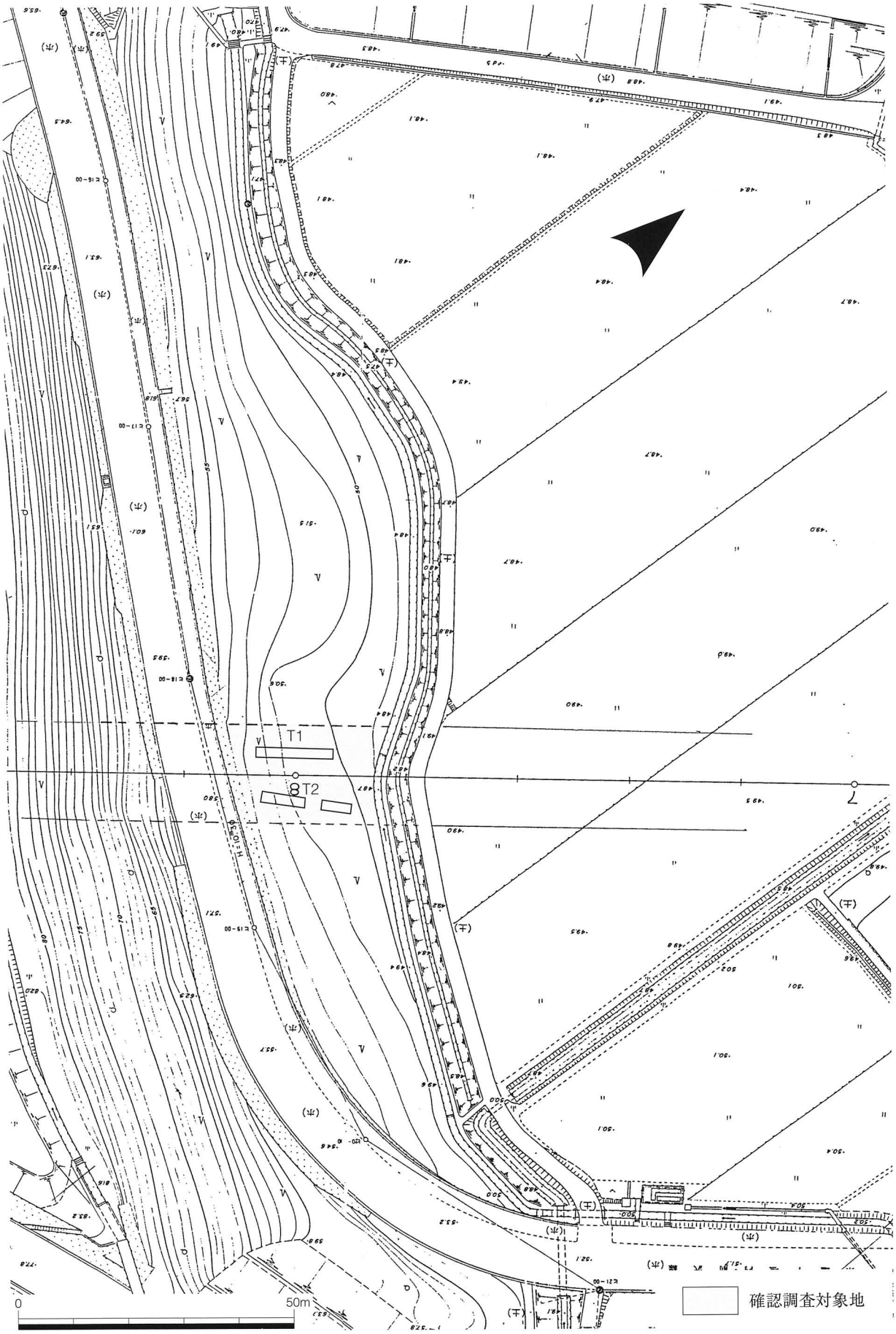
なお、当地は黒部第１トンネルに関わる工事の関係で緊急を要することから、県文化財課、黒部市、鉄道・運輸機構の協議を経て黒部市により発掘調査が実施されている。また、遺跡名を字名から『吉城寺南遺跡』とした。

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	遺構・遺物
Ｔ１	30.5	0.2～0.6		－	－	炭窯２・穴（煙道？）、土師・中土・鉄滓
Ｔ２	11	0.1～0.35		－	－	炭窯１・穴（煙道？）、土師・鉄滓多量
Ｔ２拡張区	2	0.1		－		鉄滓
Ｔ３	18	0.2～0.8			－	溝

第５表　ＨＳ－16トレンチ一覧



第４図　ＨＳ－15・16トレンチ位置図（1:1,000）



第５図　舌山遺跡トレンチ位置図（1:1,000）

4．舌山遺跡

調査対象地

舌山遺跡は、黒部川左岸の西端に位置し、隆起扇状地にかかる宮野の丘陵の北東裾部に立地し、標高約48mを測る。平成14年度に行われた分布調査によって、遺跡の範囲が西南側の丘陵斜面にも拡大された。遺跡の範囲はほぼ黒瀬川と県道下垣内・前沢線に囲まれた範囲である。また、平成15年度は舌山遺跡の本線および工事用道路部分の本調査も実施された。本調査では、竪穴住居３棟、土坑、川、谷などが検出されている。竪穴住居は中期後葉串田新式期に属すもの２棟、前田式期に属すもの１棟が検出された。Ａ１地区では串田新式期の竪穴住居１棟を検出しており、石組炉を伴っている。平面形は方形を呈すとみられる。Ａ２地区の竪穴住居は２棟あり、串田新式期のものは、円形を呈す平面形とみられるが、炉などの施設は検出していない。他１棟は、前田式期に属す竪穴住居で、石組炉を伴っている。遺物は谷、川、土坑などから串田新式期の土器を中心に出土している。Ａ１地区の川からは打製および磨製の石斧が比較的まとまって出土した。

包蔵地確認調査は、Ａ２地区と県道下垣内・前沢線に挟まれた丘陵斜面で、黒部第１トンネル東側の開口部にあたる。対象面積は354㎡あり、トレンチ２ヶ所を設定した。

基本層序

Ⅰａ層	表土	黒褐色腐植質シルト	10～25cm
Ⅰｂ層	盛土	褐色砂礫	30～70cm
Ⅱ層	湿地状堆積	暗赤褐色腐植土・浅黄色微砂	0～60cm
Ⅲ層	地山	にぶい黄色砂質シルト・礫	

調査結果

調査地の西側（丘陵側）は表土直下に地山層であるにぶい黄褐色砂質シルト層が検出される。地山層は急斜面をもって落ち込み腐植土層の堆積がみられた。１・２トレンチともに同じ土層堆積がみられたが、遺物の出土は無く腐植土層の時期は不明である。

今回の包蔵地確認調査の結果から、舌山遺跡Ａ２地区に隣接する当地区の発掘調査は必要ないものと判断した。

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	Ⅰａ層	Ⅰｂ層	Ⅱ層	Ⅲ層	遺構
Ｔ１	12.5	0.1～0.7			－	－	
Ｔ２	13	0.1～0.7			－	－	

第６表　舌山遺跡トレンチ一覧

Ⅳ　小　括

平成15年度に行った３ヶ所の埋蔵文化財包蔵地と１ヶ所の遺跡の埋蔵文化財包蔵地確認調査の結果は、次の通りである。

１．ＨＳ－10埋蔵文化財包蔵地では、調査対象地の東側で縄文時代中期の埋設土器を確認した。検出した遺構は埋設土器１基だけであったが、竪穴住居であるとみられ、包含層の拡がりから1,324㎡を本調査対象面積とした。遺跡名は『宮沢釈迦遺跡』とした。

２．ＨＳ－15埋蔵文化財包蔵地、舌山遺跡のＡ２地区西側の確認調査では、ともに遺構の検出は認められず、また、遺物の出土も無かった。従って本調査の必要は無いものと判断した。

3．ＨＳ－16埋蔵文化財包蔵地では、炭窯とみられる遺構を検出した。その結果、1,854㎡を本調査対象面積とした。遺跡名は『吉城寺南遺跡』とした。

ＨＳ－16埋蔵文化財包蔵地の北東約100mの地点でも分布調査において鉄滓を多量に採集したＨＳ－14埋蔵文化財包蔵地があり、当遺跡が炭窯の検出および多量の鉄滓の出土から、古代または中世の製鉄関連の遺跡となる可能性がある。ＨＳ－14埋蔵文化財包蔵地を含めて、富山県内では射水丘陵を中心に確認されている生産遺跡群が、黒部川扇状地西側の隆起扇状地上においても展開する可能性を示唆している。

ＨＳ－16埋蔵文化財包蔵地（吉城寺南遺跡）は、平成15年11月から平成16年２月まで、黒部市教育委員会によって、本調査が実施された。

遺跡名	対象面積（調査面積）	本調査対象面積	出土遺物	遺跡の時代
HS−10（宮沢釈迦遺跡）	7,200㎡　（288㎡）	1,324㎡	縄文土器	縄文時代
HS−15	5,600㎡　（498㎡）	−	−	
HS−16（吉城寺南遺跡）	800㎡　（98㎡）	1,854㎡	古代土師器、中世土師器、鉄滓	古代・中世
舌山遺跡	354㎡　（45.9㎡）	−	−	
計	13,954㎡（929.9㎡）	3,178㎡		

第７表　平成15年度包蔵地確認調査一覧

引用・参考文献

黒部市教育委員会　1973　『富山県黒部市前沢遺跡緊急発掘調査報告書』

富山県教育委員会　1984　『北陸自動車道遺跡発掘調査報告－朝日町編－道下遺跡』

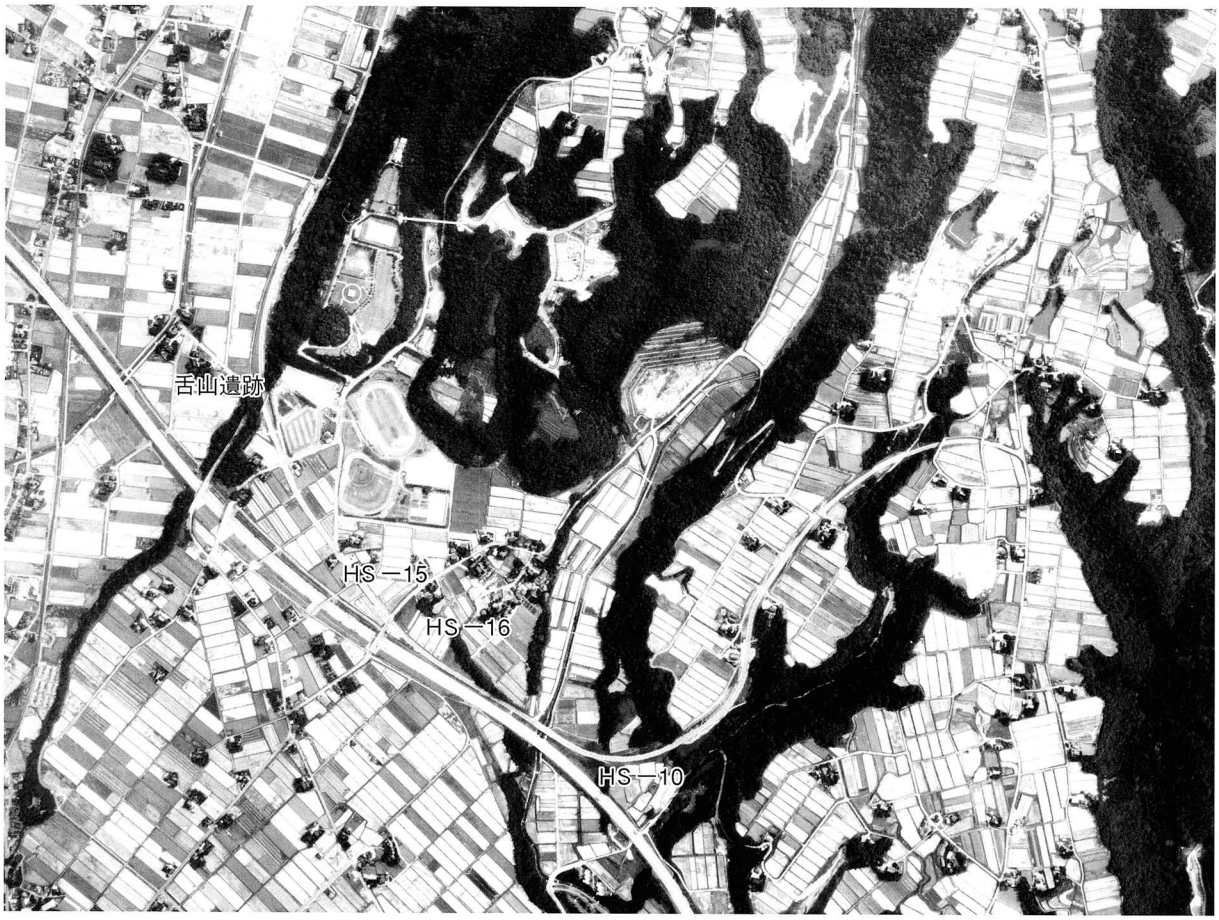
1985　『北陸自動車道遺跡発掘調査報告－朝日町編２－境Ａ遺跡　馬場山Ｄ遺跡　馬場山Ｅ遺跡　馬場山Ｆ遺跡　馬場山Ｇ遺跡　馬場山Ｈ遺跡』

1987　『北陸自動車道遺跡発掘調査報告－朝日町編３－馬場山Ｄ遺跡　馬場山Ｇ遺跡　馬場山Ｈ遺跡』

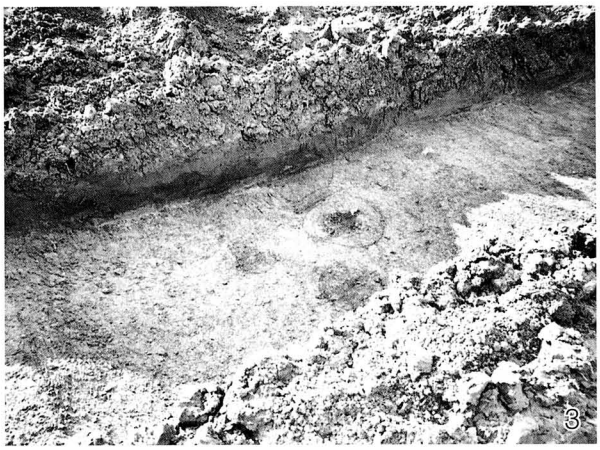
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所　2001　『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地確認調査報告（２）　竹ノ内Ⅱ遺跡（長野地区）　柳田遺跡　井ノ口城跡　下山新東遺跡　下山新遺跡』

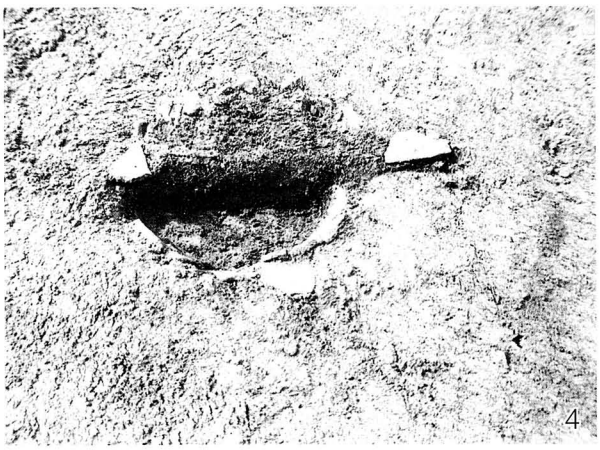
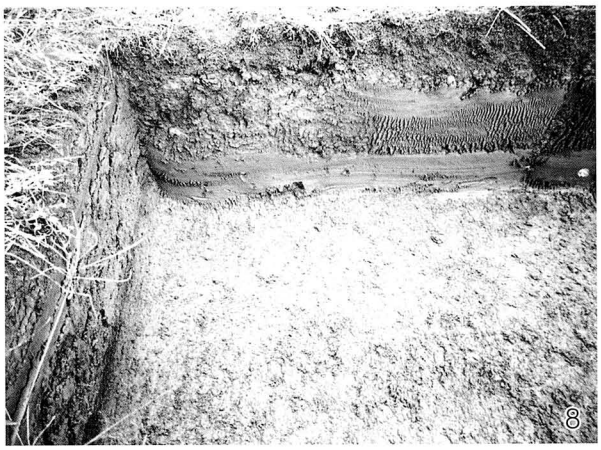
2003　『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地確認調査報告（３）　井ノ口城跡　若栗中村遺跡　舌山遺跡』

（1964年撮影）

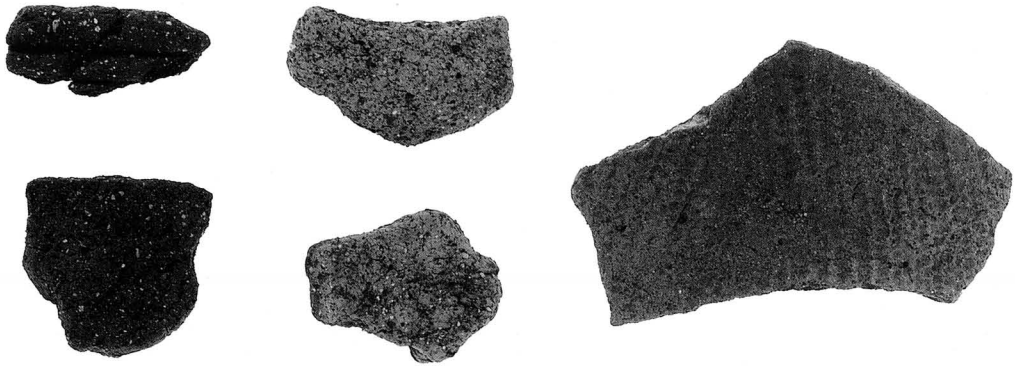


図版１　ＨＳ－10・ＨＳ－15・ＨＳ－16・舌山遺跡　航空写真　（1988年撮影）



図版２　ＨＳ－10　１.ＨＳ－10調査前全景　２.Ｔ２完掘状況　３.Ｔ２竪穴住居
４.竪穴住居・土器埋設穴　５.Ｔ３完掘状況　６.Ｔ３遺構断面
７.Ｔ10完掘状況　８.Ｔ10土層断面



1

2

5

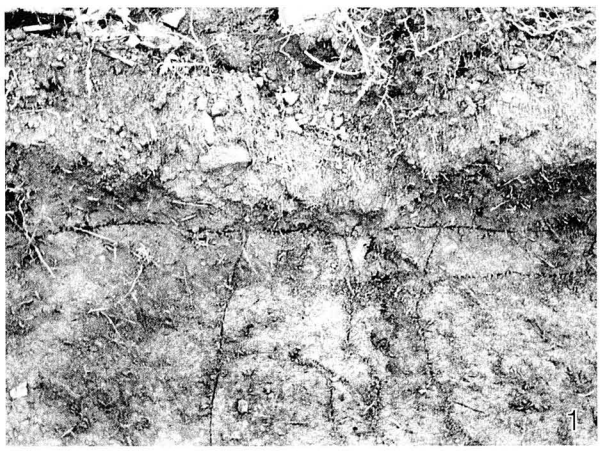
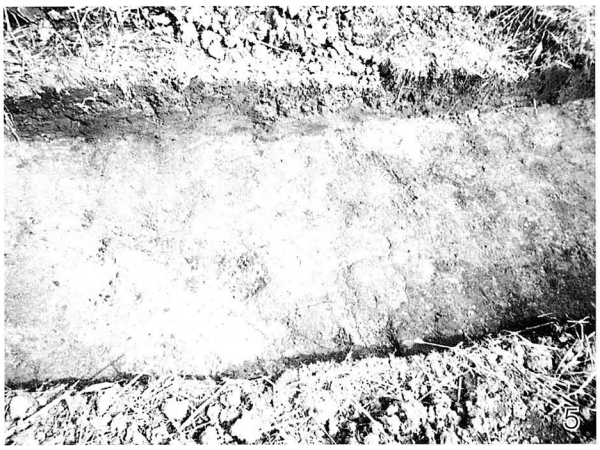
3

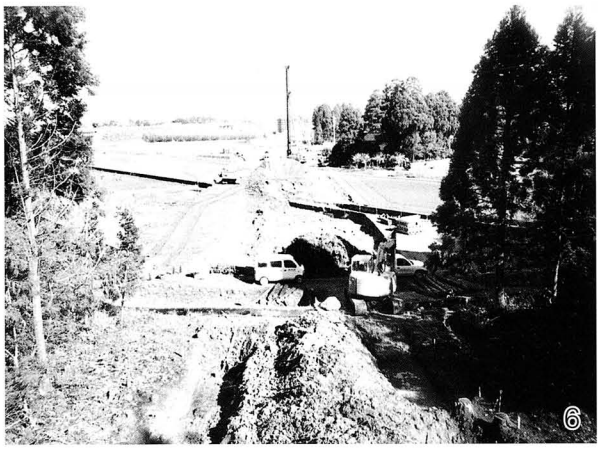
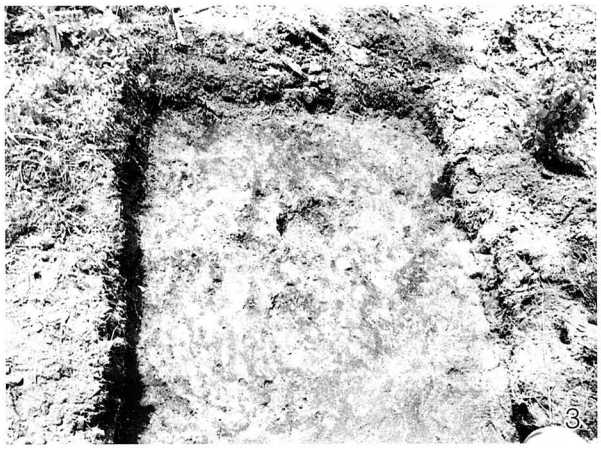
6

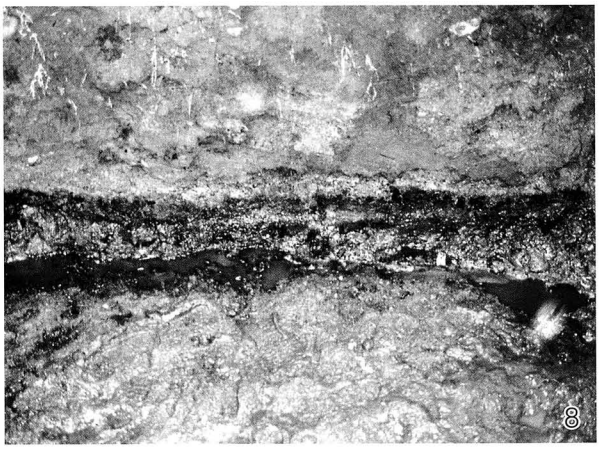
4

7

図版３　ＨＳ－10　１.出土遺物
ＨＳ－15　２.ＨＳ－15調査前全景　３.Ｔ３完掘状況　４.Ｔ３陶磁器出土状況
ＨＳ－16　５.ＨＳ－16調査前全景　６.Ｔ１完掘状況　７.Ｔ１炭層検出状況



図版４　ＨＳ－16　１.Ｔ１窯体検出状況　２.Ｔ２完掘状況　３.Ｔ２拡張区・炭層検出状況
４.Ｔ３完掘状況　５.Ｔ３溝検出状況
舌山遺跡　６.調査地全景　７.Ｔ１完掘状況　８.Ｔ１土層断面

報告書抄録

ふりがな	ほくりくしんかんせんかんけいまいぞうぶんかざいほうぞうちちょうさほうこく
書名	北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告（４） －ＨＳ－10埋蔵文化財包蔵地(宮沢釈迦遺跡)・ＨＳ－15埋蔵文化財包蔵地・ＨＳ－16埋蔵文化財包蔵地(吉城寺南遺跡)・舌山遺跡－
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第24集
編著者名	菅田　薫
編集機関	財団法人富山県文化振興財団　埋蔵文化財調査事務所
所在地	〒930－0887　富山県富山市五福4384番1号　TEL076―442―4229
発行年月日	西暦2004年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
えいちえすじゅう ＨＳ－10	くろべしみやざわ 黒部市宮沢	16207	068	36° 51′ 38″	137° 28′ 01″	20031020 ～ 20031023	288 (対象7,200)	北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査
えいちえすじゅうご ＨＳ－15	くろべしみやの 黒部市宮野	16207		36° 51′ 56″	137° 28′ 18″	20030512 ～ 20030514	498 (対象5,600)	北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査
えいちえすじゅうろく ＨＳ－16	くろべしきちじょうじ 黒部市吉城寺	16207		36° 51′ 54″	137° 28′ 17″	20030514 ～ 20030520	98 (対象800)	北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査
したやまいせき 舌山遺跡	くろべしわかぐり 黒部市若栗	16207	027	36° 52′ 10″	137° 28′ 32″	20031112 ～ 20031114	45.9 (対象354)	北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ＨＳ－10	集落	縄文	竪穴住居	縄文土器	みやざわしゃか 宮沢釈迦遺跡とする
ＨＳ－15					本調査を必要としない
ＨＳ－16	製鉄	古代・中世	炭窯・穴・溝	土師器・中世土師器・鉄滓	きちじょうじみなみ 吉城寺南遺跡とする
舌山遺跡					本調査を必要としない

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第24集

北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告（４）

—ＨＳ－10埋蔵文化財包蔵地（宮沢釈迦遺跡）・ＨＳ－15埋蔵文化財包蔵地
ＨＳ－16埋蔵文化財包蔵地（吉城寺南遺跡）・舌山遺跡—

編集・発行　財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
〒930-0887　富山市五福4384番１号
ＴＥＬ　076-442-4229
発行日　2004（平成16）年３月29日
印　　刷　とうざわ印刷工芸株式会社